

お口爽やかですか

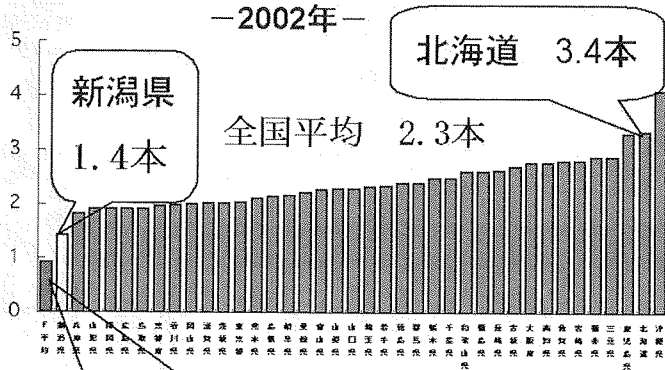
テーマ 秋野憲一 歯科医師の特別講演
(北海道保健福祉部主任技師)

今後の北海道の歯科保健対策は科学的な根拠で

北海道の12歳児のむし歯本数は全国平均の1.5倍。沖縄についてワースト2位

4月22日(金)夜、上川中部地域歯科保健推進協議会総会で、北海道保健福

都道府県別12歳児のむし歯数



フッ素洗口実施校 0.9本 (日本歯科医師会調べ)

社部主任技師の秋野憲一 歯科医師の特別講演が行われた。

演題は「道民の健康向上をめざした科学的な根拠に基づく北海道の歯科保健対策について」である。

現在、北海道の12歳児のむし歯本数は、沖縄についてワースト2位、全国平均の1.5倍の3.4本である。そのような事情もあり、北海道大学と北海道医療大学の専門

講座の協力で「市町村母子歯科保健指導マニュアル」が北海道保健福祉部から昨年出された。

従来の経験に基づく意見や推測での政策はなく、多くの知見をもとに、その効果や効率性が検討された上で、最も有効性の高い事業を選択し、今後実施していくというものである。北海道の歯科政策が変容すると期待している。

科学的根拠 (EBM) とは、単に大学教授や博士など権威者の経験に基づく個人的な意見や推測ではなく、正しい研究方法で導き出され評価された複数の研究論文の結論を根拠とすること。

秋野先生は、これからの市町村における歯科保健対策を立案する上でも、国内外で策定された各種の保健医療ガイドラインを参考として、現に都道府県のむし歯数を比較すると、学童の65%がフッ化物洗口を実施している新潟県が1.4本、さらにフッ化物洗口実施校の平均が0.9本とフッ化物洗口のむし歯予防効果を指摘し、「国のフッ化物洗口ガイドライン」を尊重するように述べた。